

甲状腺検査の結果について

同封にてお送りしました、「県民健康調査」甲状腺検査の結果について、より詳しくご説明いたします。

この検査は、甲状腺にのう胞や結節(しこり)などがあるかを調べるものです。
のう胞や結節のサイズ、状態によって判定をし、お知らせしております。

A判定の方は、次回の検査をご受診ください

A判定

A1 のう胞や結節は認められなかったもの

A2 5.0mm以下の結節や、20.0mm以下ののう胞



B判定

5.1mm以上の結節や、20.1mm以上ののう胞

C判定

甲状腺の状態から判断して、直ちに二次検査を要するもの

B判定、C判定の方は
より詳細な二次検査を
お勧めします

のう胞や結節がどういうものであるかなど、
詳しくは中面をご覧ください。

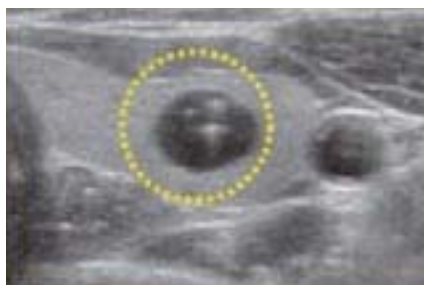




「のう胞」と「結節」について

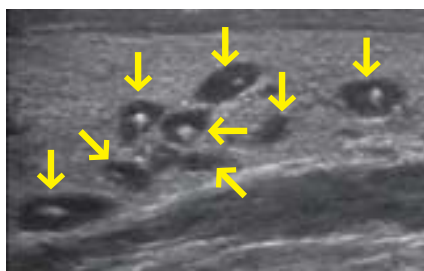
のう胞

のう胞は中に液体がたまった袋状のもので、健康な方にも見つかることの多い、良性のものです。

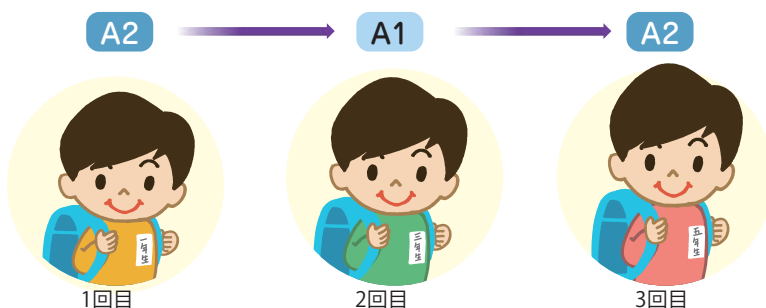


・のう胞は数やサイズが頻繁に変わるものです。
多くの方が複数ののう胞を持っていますので、その中で最大のものの大まかなサイズをお知らせしております。

・のう胞は液体が詰まったもので、細胞が無いのでがんになることはありません。
従って今回の検査でのう胞と判断されたものは良性的です。



・のう胞は乳幼児期には少なく、成長に伴い学童期～中高生に多く見られます。
また、出来たり消えたりすることがあります。



同じお子さまの成長に伴い判定が変わることはごく自然なことと言えます。



結節

結節はしこりとも呼ばれ甲状腺の細胞が変化したものです。

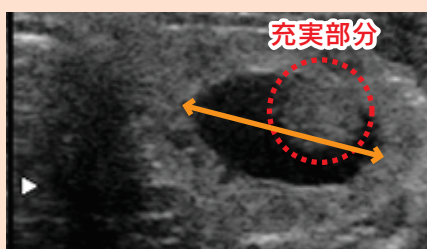


・結節には良性と悪性(がん)があり、多くは良性的です。

・通常の診察では、精密検査が必要となる結節の多くは10～20mm以上ですが、福島では、より小さい5.1mm以上を二次検査としています。

・5.0mm以下の小さい結節は大きくなる速度が大変遅く、数年ではほとんど大きさが変わらないことが多いため、「A2」として次回検査を受診いただきます。

・5.0mm以下でも二次検査を受けたほうが良いと判断した方はB判定としています。



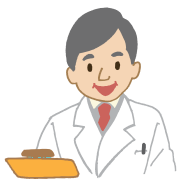
のう胞全体で計測



「充実部分を伴うのう胞」は全て「結節」としています

のう胞の中に一部充実部分(細胞)がある、「充実部分を伴うのう胞」と呼ばれるものがあります。これらは、通常の診察では「のう胞」と分類されることがありますが、中に細胞があるため、まれにがん化することがあります。

そのため、福島では、「充実部分を伴うのう胞」は全て「結節」として扱っています。またサイズは中の充実部分ではなく、のう胞全体のサイズを計測しています。このため、充実部分が5mm以下のものもB判定となりますが、二次検査の結果、その多くは問題はなく、経過観察という結果になっています。



これまでの検査の結果について

①福島県と県外の検査結果の比較

表1は、福島県「県民健康調査」甲状腺検査の1回目の検査(先行検査)で検査結果が確定した、287,056人(平成26年3月31日現在(2月21日検査分まで結果確定))の検査結果内訳です。

また、表2は環境省が平成24年度に実施した福島県外3県(青森県、山梨県、長崎県に住む幼稚園～高校生4,365名対象)における甲状腺有所見率調査の検査結果です。

それぞれの検査結果を比較すると、現時点では A、B、C の割合に大きな差がないということが分かります。

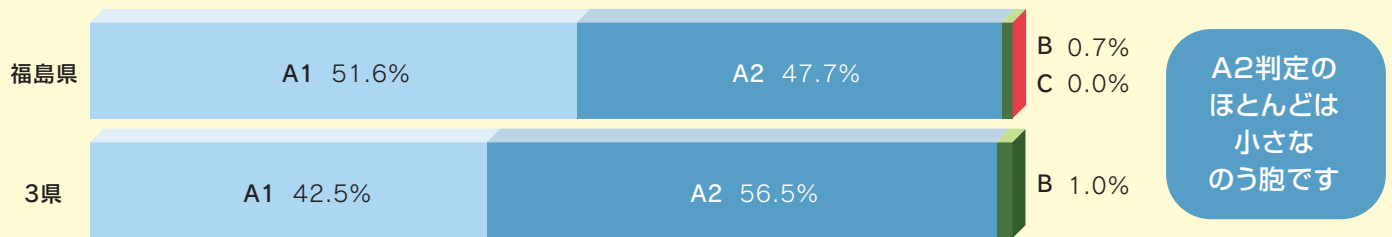
表1 福島県「県民健康調査」甲状腺検査結果

判定結果		合計		
		人数(人)		割合(%)
A	A1	148,182	284,986	51.6
	A2	136,804		47.7
B		2,069		0.7
C		1		0
合計		287,056		100

表2 福島県外3県における甲状腺有所見率調査結果

判定結果		合計		
		人数(人)		割合(%)
A	A1	1,853	4,321	42.5
	A2	2,468		56.5
B		44		1.0
C		0		0.0
合計		4,365		100

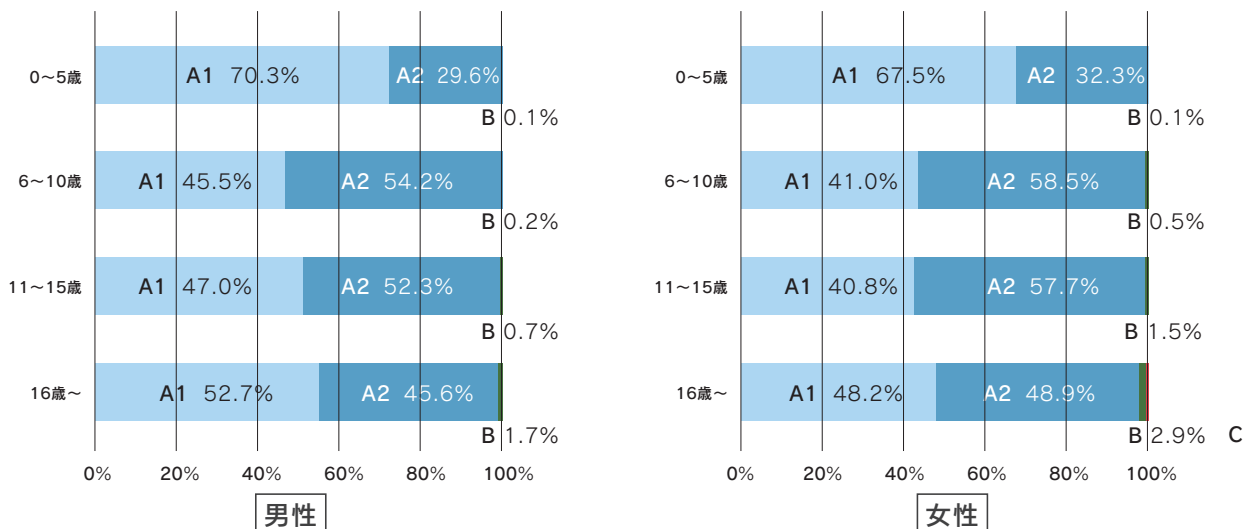
※平成26年3月31日現在(2月21日検査分まで結果確定)



②年代別の結果内訳について

のう胞は成長に伴って増加し中学生頃にピークを迎え、その後少しずつ減る傾向にあります。

A2の割合もそれに伴い変動しています。(グラフの年齢は平成23年3月11日時点のもの)



●小数点第一位で表示されている割合のものは、四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。

※平成26年3月31日現在(2月21日検査分まで結果確定)

よくあるご質問

Q 2年に一度の検査で大丈夫？

A のう胞は中身が液体の良性のものであり、がん化しません。また小さい結節は、のう胞と区別がつかないものも多く、非常にゆっくり育つものが多いため、2年に1回でも十分早期発見となります。

**Q のう胞や結節ができたら
どういう症状が出るの？**

A まれに、外から触って頸部にしこりが触れたり、飲み込む際に違和感があったりすることがありますが、多くは自覚症状はありません。小さなう胞や結節は、超音波検査でしか発見できないため、ぜひ検査を継続して受診してください。

**Q 前回A1だったのに
今回A2だったので心配**

A A2のほとんどが小さなう胞です。のう胞は幼児期には少なく、年齢が上がるにつれ増え、中学生頃にピークを迎える傾向にあります。上の質問にあるような理由から、A2であっても、ご心配はありません。状態に変化がないか見守るため次回検査をお受けください。



Q 検査はいつまで続けるの？

A この甲状腺検査は、20歳までは2年ごと、それ以降は5年ごとに長期にわたって行います。今後、進学や引っ越し等で皆さんの生活が大きく変わることが想定されます。その際は、下記お問い合わせ先まで住所変更等のお手続きを忘れずをお願いいたします。

Q 福島で子どもの甲状腺がんが見つかったけど、放射線の影響はどんなの？

A 放射線の影響による甲状腺がんの発症は、特に被ばく時年齢が0～5歳など若いほどリスクが高くなります。また甲状腺がんは非常にゆっくり大きくなるものがほとんどです。これまで施行されていなかった子どもの甲状腺検査を行うことにより、一定の率で甲状腺がんが見つかっています。福島の先行検査(1回目の検査)で見つかった甲状腺がんは、リスクが高いといわれる原発事故当時年齢の低い方の発症が少ないことや、腫瘍のサイズなどから、現時点では放射線の影響は考えにくいとされています。放射線の影響をみるためには長い期間経過を見守る必要があります。皆様の健康管理のためにもぜひ継続してご受診ください。

【検査結果の詳細情報の入手について】

甲状腺検査結果の詳細情報(超音波画像等)について、今までよりも簡易な手続きで自己情報を取得できるようになりました。詳しい内容につきましては、下記問い合わせ先または(<http://fukushima-mimamori.jp/thyroid-examination/data-request/>)でご確認ください。

【お問い合わせ先】

◎甲状腺検査の最新の結果などの詳細は、下記webサイトでご覧いただけます。

福島県立医科大学 ふくしま国際医療科学センター 放射線医学県民健康管理センター

TEL.024-549-5130(9:00～17:00 土日・祝日を除く)

※おかけ間違いのないようご注意ください

<http://fukushima-mimamori.jp/thyroid-examination/>

